

2018 年度組織的研究教育活動報告

【FD 研究会】

以下の報告は「2018 年度 FD 活動報告書」記載内容から一部抜粋した。

第 1 回 FD 研究会

①テーマ：講義科目の知識を定着させるアクティブラーニング

②日時：2018 年 7 月 18 日（水）17:15～18:30

③場所：湘南校舎 15 号館 5 階現代教養センター第 3 共同研究室

④概要：今年度の現代教養センターでは新カリキュラムの実施に伴い、新たな視点で講義科目における教育の質を向上させることが求められる状況であった。今回は、現代教養センターの「基礎教養科目」を事例として、講義科目の実施に役立つ教育方法を検討し、今後の授業に反映できるような教育現場の意見を得ることを目指した。開会にあたって現代教養センター所長成川忠之より、学生の主体性を引き出す意義や、その手法を全体で共有することの重要性について挨拶がされた。

講演では講師長田和也より、一般的なアクティブラーニングのイメージと具体的な手法についての説明がなされた。ジグソー法を用いた、講師自身の「基礎教養科目」授業の実践談を交えた具体的な手法等が紹介された。ワークショップにおいては、参加者は「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」の 3 つの領域ごとのグループに分かれ、ジグソー法を用いて授業案を考えた（グループディスカッションと共有）。

全体討議では、主に①ジグソー法について、②「基礎教養科目」について、③アクティブラーニングについて、の議論がなされた。特に学生の主体的活動に関して、「基礎教養科目」全体として共通の認識の下に活発な意見交換が行われた。最後に現代教養センター主任田中省吾より、「一斉講義でも学生の関心が集まる瞬間があり、教室外での学生の人生・生活と講義内容との繋がりについてさらなる議論を深めていきたい」との挨拶がされた。

[講演] 「講義科目の知識を定着させるアクティブラーニング」

講師：長田和也（現代教養センター）

（司会：村松香織、記録：池谷美衣子、写真：定岡利典、受付：福留恵子）

第2回 FD 研究会

①テーマ：新カリキュラム「基礎教養科目」のPDCAを検討する

②日時：2018年11月21日（水）17:15～18:30

③場所：湘南校舎15号館5階現代教養センター第3共同研究室

④概要：現代教養センターでは本年度より新カリキュラムが開始され、「基礎教養科目」を開講した。秋学期半ばの11月時点において、春学期の教育実践を元に問題点を洗い出し、今後の授業改善に役立てることは不可欠であることから、本テーマが取り上げられた。特にオムニバス方式における教育・運営上の問題や、学部教育と教養教育のあり方に関する諸問題について、「基礎教養科目」三分野の現状報告をもとにPDCAを検討すべく、教育現場に立つ教員のための意見交換の機会として設定された。開会の挨拶として、現代教養センター所長成川忠之より、「基礎教養科目」としての重要性とPDCAを回すにあたっての問題点、また学部の授業と乖離していないか等、「基礎教養科目」の現状について検討してもらいたい旨が述べられた。学長挨拶では、山田清志学長から2022年の全学的な改組の動きと教養教育におけるセンターの担う役割について、そして今後における教養教育と学部との連携強化の方向性等について述べられた。「今回のようなFD研究会は、2022年改組のための重要な参考となるので十分に議論して頂きたい」とのお言葉を頂いた。

講演では、「基礎教養科目」の「人文科学」に関して、講師加藤次直より5つの問題が挙げられた（1. 科目設計に由来する問題、2. 配布資料に関する問題、3. 必修科目であることの問題、4. 成績評価についての問題、5. 授業内容についての問題）。

「社会科学」に関して、講師大江一平より2つの問題（1. クラス編成上の問題、2. 授業レベル設定の問題）と現状の対応策が述べられた。「自然科学」に関して、講師松本俊吉より4つの問題が挙げられた（1. 採点基準について、2. 再履修クラス特有の問題について、3. リテラシー能力について、4. 授業レベルの設定について）。続いて「基礎教養科目」の振り返りと改善に向けて、講師東慎一郎より事前アンケート

の集計結果を元に報告がなされた（2018年9月、「春学期「基礎教養科目」の実践に関するアンケート調査」を現代教養センター所属教員対象に実施。質問1：「基礎教養科目」の実践に関して気づいた点、改善すべき点についての自由記述、質問2：オムニバス形式の授業形態に関する問題点や気づいた点についての自由記述）。結果として、「基礎教養科目」を導入した当初の理念や、文理融合の基礎を培うための基礎教養としての価値について、またオムニバスの授業形態に由来する制度上の問題が多く存在すること等が発見され、改善の必要性が明らかとなった。

全体討議では、センター教員のみならず他部署所属の参加者の意見も伺い、「評価の割合について」、「授業内容およびクラス編成について」、「学部の教育との関係性について」等、多くの問題に関して議論が深められた。最後に現代教養センター主任田中省吾より、科目担当者への感謝の意が述べられ、秋学期の成績評価に関する言及で閉会の挨拶が締めくくられた。

[講演]

- 1) 「人文科学」科目について 講師：加藤次直（現代教養センター）
- 2) 「社会科学」科目について 講師：大江一平（現代教養センター）
- 3) 「自然科学」科目について 講師：松本俊吉（現代教養センター）
- 4) 基礎教養科目の振り返りと改善に向けて 講師：東慎一郎（現代教養センター）

[全体討議]

モデレーター：田中彰吾（現代教養センター）

（司会：村松香織、記録：長田和也、写真：福留恵子、受付・庶務：定岡利典、池谷美衣子）

【セミナー「パブリック・アチーブメント（PA）型教育セミナー】

①日時：2018年8月27日（月）12時～15時半

②場所：湘南校舎 15号館4F 第一会議室

③報告者：趣旨説明・堀本麻由子（現代教養センター）、第I部 授業実践報告者・青木孝子（現代教養センター）、植田俊（国際文化学部）、加藤和美（清水教養センター）、コメンテーター・Harry Boyte 博士（アウグスバーグ大学）、司会・二ノ宮リムさち、

第Ⅱ部 報告者・Marie Ström さん（アウグスバーグ大学）、司会・東慎一郎（現代教養センター）

④内容 シティズンシップ教育の権威かつ、パブリック・アチーブメントの創始者である米国アウグスバーグ大学の Harry Boyte 博士を湘南校舎に招き、第Ⅰ部では 2018 年度春学期から開始されたパブリック・アチーブメント（PA）型授業の検討会を実施した。授業（発展教養科目、専門科目、自己形成科目）実践報告者として、青木、植田、加藤が報告を行った。その後、Boyte 博士によって高等教育におけるシティズンシップ教育の観点からのコメントがなされた。第Ⅱ部では Marie Ström 氏から、講演テーマ「N. F. S. Grundtvig, Danish Folk Schools and Democracy Education in a Globalized World」に基づき、グローバル時代におけるデンマーク国民高等学校と民主主義教育のかかわり方に関する報告がなされた。尚、本セミナーは、通訳を介さず、基本的に英語で実施された。

【発展教養科目ワークショップ】

■ 「シティズンシップ」・「ボランティア」

①日時：2018 年 11 月 5 日（月）、11 月 8 日（木）

②報告者：池谷美衣子（現代教養センター）、田島 祥（現代教養センター）

③内容

発展教養科目担当教員向けに作成されたガイドブックに基づきながら、「シティズンシップ」、「ボランティア」の内容・方法・評価について説明がなされ、参加者からは具体的な授業運営に関する質問、意見等があった。

■ 「地域理解」・「国際理解」

①日時：2018 年 11 月 9 日（金）、11 月 13 日（火）

②報告者：二ノ宮リムさち（現代教養センター）、村上治美（国際教育センター）

③内容

発展教養科目「地域理解」については、担当教員ガイドブックに基づき、内容・方法・評価に関する説明がなされた。「国際理解」については、授業内容に関する概要説明と 2018 年度前期授業の報告がなされた。参加者からは、専門分野にそった授業テーマの設定、グループ演習方法に関する質問がなされた。